



ばらばらで一緒 ～美香保中だより～

発行 札幌市立美香保中学校

住所 東区北17条東6丁目1-1

電話 (011)-711-8151

第76回 学校祭が行われました

9月30日(火)笑顔の華でいっぱい思い出をフィルムがなくなるまでたくさん残したい、また、フィルムを見返した時にも笑顔の華であふれるような学校祭にしたいという思いを込めた、テーマ「Film」のもと、第76回学校祭が行われました。各学年、ステージ部門、装飾部門に分かれて活動し、素晴らしい発表をすることができました。生徒作文で、その取組を振り返ります。

みんなが主役の最高のステージ

正直に言うと、「装飾をつくっても見てもらえるかなんてわからない。」とたまに考えてしまうことがあった。それは、「ほかの学年や部門の作品や装飾に埋もれてしまうかも。」という考えもあったが、頭の大半を占めていたのは「装飾は主役じゃない。」という思いだった。私の中の主役はステージ発表であり、装飾はその引き立て役に過ぎないと考えていた。けれど、その考えは学校祭当日に変わるようになった。

学校祭当日、私は初めて他の部門の装飾を見た。私は最初に「みんな主役だ。」と思った。その時、それぞれの装飾のすべてが平等に輝けるステージが用意されていることに気づいた。装飾部門 A、B そして、ステージ発表、その中の演者や背景セットや小道具。そして生徒会役員の人たちがみんなを盛り上げようとしてくれたこと、それらがすべて合わさったときに、学校祭は完成するんだ。と学ぶことができた。これまでは、ステージ発表が学校祭の主役だと思っていたけれど、それは違ってみんなが主役だと私は考えた。ステージ発表のために舞台が用意されているように、私たち装飾にもちゃんとステージが用意されていて、ひとつひとつはとても小さなものでも、そのすべてが合わさると他の人を感動させられるような発表ができるんだと思った。初めての学校祭で「みんなと協力して作り上げたものは、大きさや見た目に関係なく、何よりも輝ける。」ということを学ぶことができた。それは今後の学校生活でも、生きてくことだと思う。そして、何事も楽しむにはほかの人の支えが必要だということも学ぶことができた。

最後に、準備期間を含め、とても楽しい学校祭を過ごすことができた。今年の学校祭を上回るくらい楽しい学校生活をこれからの中学校生活で作っていききたい。(



- 1年 ステージ『カラフル』
装飾A 『みんなのヒーロー 懐かし FILM
～埴輪に笑顔の華が咲く～』
装飾B 『アクアリウム』
- 2年 オープニング『記憶のカケラ』
装飾 『Film』
- 3年 ステージ『あやかしの夜』
装飾 『修学旅行の思い出』
- 5組 ステージ『ノートルダムの鐘』
装飾・販売部門
- ・つまようじアート…シンボルマーク
 - ・ちぎり絵…「ノートルダムの鐘」
 - ・作業学習での作品の展示、販売



学校祭の思い出

今年の学校祭は、私にとって忘れられない思い出になりました。準備の段階から、チームの仲間と力を合わせて取り組んだことが、特に印象に残っています。

私たちのチームは装飾を担当し、ポップコーンやカメラをテーマにした作品を企画しました。最初は意見がなかなかまとまらず、時間がかかってしまいましたが、限られた時間の中で段ボールやガムテープを使って形を作り上げていくうちに、少しずつ完成に近づいていくのがとても楽しかったです。居残りをして作業する日も多くありましたが、完成が近づくにつれて疲れよりも期待のほうが大きくなっていきました。

学校祭当日、自分たちが作り上げた装飾をあらためて見ると、思っていた以上にうまくできていて、見てくれる人の笑顔を見るたびに「頑張ってたかったな。」と実感しました。特に、普段はおとなしいクラスメイトが劇で真剣に演じる姿が印象的で、仲間の新しい一面を知ることができました。また、他の学年の装飾を楽しそうに見ている人たちの姿からも、会場全体の明るい雰囲気を感じました。

締めくくりの全校イベントでは、みんなで声を合わせて歌い、自然と拍手が広がっていきました。そのときに感じた一体感は、準備から本番まで積み重ねてきた努力が実を結んだからこそ味わえたものだと思います。学校祭を通して、仲間と協力する大切さや、一緒に過ごす時間の尊さを改めて感じました。この経験を胸に、これからも仲間とともに成長し、夢に向かって進んでいきたいです。

3年連続...

自分が学校祭で思い出に残っていることは2つあります。1つ目は、日々の練習についてです。今年も自分は主役を務めさせていただき、昨年よりもセリフの量が増えて、最初は覚えきれぬ不安でいっぱいでしたが、毎日放課後まで居残りをして、家に帰っても母に手伝ってもらったり、先生や先輩の先生方に協力してもらってセリフを覚えられました。ですが、セリフを覚えてもなかなか、ジェスチャーや話し方を意識するとセリフに追われてしまい、早口になったり、語尾がはっきり喋れなかったりして、そのたびに悔しい気持ちになりました。しかし、どんな時もみんなが支えてくれ、監督、先生方からもアドバイスをいただき、あきらめずに頑張ることができました。

2つ目は本番当日、ステージに立ったときは中学校生活最後というもあり、緊張で胸がいっぱいでした。けれど、照明が当たった瞬間に不思議と落ち着き、これまでの練習を信じて演じることができました。暗転してステージが暗いとき観客のみんなが、真剣な顔で自分たちのステージを観てくれているとき、「みんなと一緒に作ってきた舞台が今ここで完成したんだ。」と実感しました。演じ終えた時の達成感は何にも代えられないものです。

そして、三年間連続で主役を務めるという経験は、自分の中で大きな財産になりました。挑戦する勇気を持てば、自分を成長させられるということを実感しました。仲間と協力し合い、一つの舞台を作り上げる楽しさも改めて感じました。この経験をこれからの学校生活や高校生活にもつなげていきたいと思います。



今年も大きく育ちました！

私たち保体常任委員会では今年もひまわりを育てています。去年のひまわりの種も一緒に植え、夏休み前から育ててきました。種植えから自分たちで行い、雑草を抜いたり水やりをしたりとみんなで協力して行いました。

夏休み中に大きく育ち、保体常任委員会全員で大切に育ててきて生徒玄関前に咲いているのでぜひ見てみてください。



ノートルダムの鐘

9月30日美香保中学校で学校祭を行いました。5組では、劇「ノートルダムの鐘」をやりました。自分は悪役フロローの役をやりました。フロローの役は、セリフが多く長文で、途中何回もつまづいたりかんじりました。演技も細かく身振り手振りもとても難しかったです。ですが練習しているうちに身振りや手振りも分かるようになってきました。セリフも全然覚えることができましたが先生やクラスの仲間がアドバイスをくれたり、次は自分の番だと教えてくれたりしたおかげで、徐々に覚えていくことができました。

他にも、終盤でファイヤーインザホールと舞台の一番前に立って叫ぶ場面は今まで劇をやってきた中で一番緊張しました。ですがつまづくこともなく大声で言えてとても達成感がありました。他には、道具作りで松明を作ったり、爪楊枝で学校祭のシンボルマークを作ったりしました。爪楊枝アートでは、たくさんの時間と忍耐力が必要でした。しかし自分たちは爪楊枝アートを完成させることができました。これを完成させた時はとても達成感と喜びに包まれました。当日は作業製品販売会もあり、接客と品出しをしました。お客さんの対応をしながら品出しもしないといけないので、とても大変でした。ですが皆さん笑顔で色々な物を買って行ってくれてとても感謝しています。

2年生の劇では、記憶を無くした主人公が仲間たちと記憶を取り戻すストーリーがとても感動的でした。他の学年が作った天井から吊るされているシンボルマークの裏に描かれている絵が素敵だなと思いました。

中学校生活最後の学校祭では、皆盛り上がっていて最高な学校祭でした。これから先もまた劇をするようなことがあったら、今回の経験を生かしていきたいです。

みかほっ子応援団コーナー

募集中

—お願いします—



10月6日(月)に、美香保中学校で『みかほっ子サミット』を開催しました。

今年度は、中学生が全体司会を行い、サークル対話の進行役を務めました。美香保小・北光小の皆さんや地域の方、保護者の方、みかほっ子応援団の方々も一緒に、『笑顔の華が咲く挨拶』と『笑顔の華が咲く多様な人との交流』について話し合いました。参加者からは、「今日一日とても楽しかった。」「中学生の進行為が立派だった」とお褒めの言葉をいただきました。

みかほっ子応援団では、部活動支援や合唱コンクールの練習サポートなどの他にも、新しいアイディアが寄せられています。誠にありがとうございます。今後とも、よろしく願いいたします。



令和7年度 美香保中学校「学習と生活に関するアンケート」

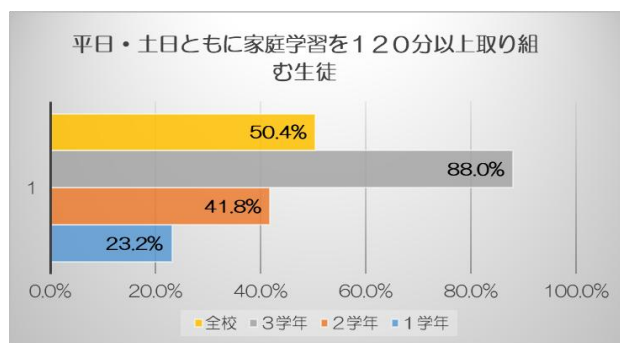
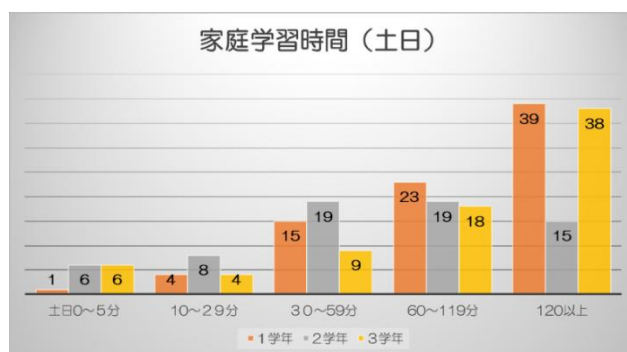
全校集計分析（1学期）から見えてきたこと

この度、生徒の皆さんを対象に実施した家庭学習に関する調査結果がまとまりましたので、御報告させていただきます。今年度は全体として学習への前向きな変化が見られる一方で、学年ごとの課題や生活習慣との関係など、引き続き注視すべき点も明らかになりました。

1. 家庭学習時間について

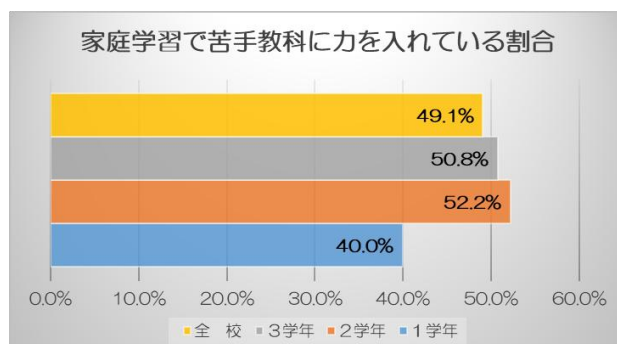
今年度の家庭学習時間は、全体平均で平日 84.7 分、土日 98.4 分と、昨年度から向上し、改善傾向が見られました。特に3学年（受験を見据えた姿勢の定着）や1学年（土日の大幅な増加）で顕著な伸びが見られます。

一方、2学年は平日 70.6 分、土日 67.4 分と横ばいで、依然として低水準にとどまっている状況です。また、平日・土日ともに120分以上学習に取り組む生徒が全体で50.4%に達する一方で、10分以下の層も5.4%存在しています。



2. 苦手克服への意識向上と支援の必要性

「苦手教科に力を入れて学習する」生徒は、昨年度の37.7%から大きく改善し、今年度は全体で49.1%となりました。特に2・3学年では半数を超え、「苦手を克服したい」という前向きな姿勢が強まっていることがうかがえます。ただし、国語・数学・英語といった主要教科に苦手意識が集中していることが、課題として挙げられます。



3. 学年ごとの学習習慣の課題

「ノート・プリントの活用」や「テスト・ワークをできるまで繰り返す」といった具体的な学習習慣については、学年ごとに明確な差が見られました。

1 学年・3 学年：これらの学習習慣が改善・定着傾向にあります。

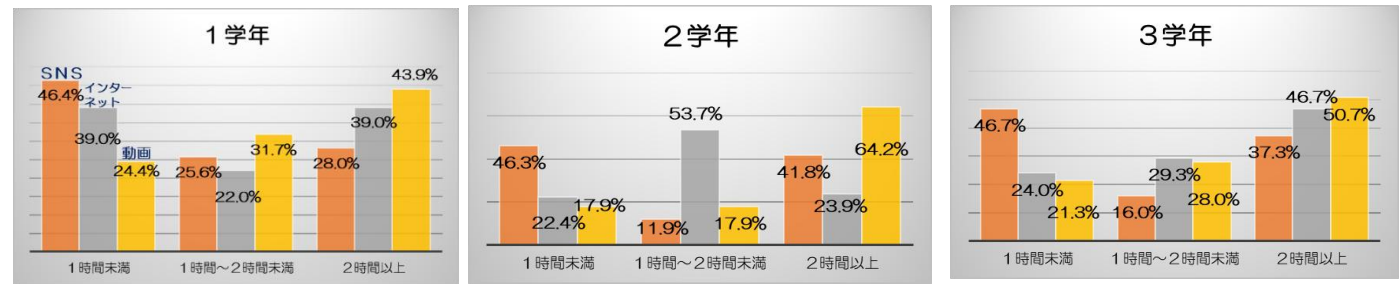
2 学年：これらの具体的な学習への取組が低下しており、学習時間の低迷と併せて、学習方法そのものの見直しと支援が課題となっています。

1 学年 82人				2 学年 67人				3 学年 75人			
家庭学習	よく活用する	時々活用する	全く活用しない	家庭学習	よく活用する	時々活用する	全く活用しない	家庭学習	よく活用する	時々活用する	全く活用しない
ノート・プリントを活用しているか	44.0%	53.6%	2.4%	ノート・プリントを活用しているか	7.4%	83.6%	9.0%	ノート・プリントを活用しているか	17.3%	72.0%	10.7%
家庭学習	できるまで	できるまでしない	全く活用しない	家庭学習	できるまで	できるまでしない	全く活用しない	家庭学習	できるまで	できるまでしない	全く活用しない
テスト・ワークをできるまで解き直すか	50.0%	43.1%	6.9%	テスト・ワークをできるまで解き直すか	32.8%	52.2%	15.0%	テスト・ワークをできるまで解き直すか	42.7%	46.7%	10.7%

4. 長時間のインターネット利用と学習時間の関係

SNS・インターネット・動画をいずれも2 時間以上利用する生徒が、1 学年 28%、2 学年 42%、3 学年 37%で、特に2 学年で高い割合となっています。これらの生徒は学習時間が平均を下回っており、長時間にわたるインターネット利用が家庭学習に影響を与えていることが改めて確認されました。

1 学年 82人				2 学年 67人				3 学年 75人			
家庭の時間	SNS	インターネット	動画視聴	家庭の時間	SNS	インターネット	動画視聴	家庭の時間	SNS	インターネット	動画視聴
1 時間未満	46.4%	39.0%	24.4%	1 時間未満	46.3%	22.4%	17.9%	1 時間未満	46.7%	24.0%	21.3%
1 時間～2 時間未満	25.6%	22.0%	31.7%	1 時間～2 時間未満	11.9%	53.7%	17.9%	1 時間～2 時間未満	16.0%	29.3%	28.0%
2 時間以上	28.0%	39.0%	43.9%	2 時間以上	41.8%	23.9%	64.2%	2 時間以上	37.3%	46.7%	50.7%



【総括】

今年度の家庭学習は、全体的に学習時間が増加し、特に受験を控える3 学年や1 学年で改善が見られ、苦手克服への意識も向上しました。

一方で、課題も明確になっています。

① 学習時間について：長時間取り組む生徒が増えている一方で、学習に取り組む時間が少ない生徒も一定数存在しています。

② 長時間インターネット利用の影響：SNS や動画の長時間利用が全学年で確認され、学習時間を圧迫している状況が見られます。

学校では、定期テスト・長期休みの計画づくり等に、自身の生活習慣を振り返る機会を作るなどの取組を行っています。他にも、行事や日々の学習の際には、振り返りを大切にするよう声をかけております。その上で、学校では、生徒一人ひとりが主体的に学習に取り組むことのできる環境づくりをより一層強化していきます。また、引き続き「粘り強く挑む力」と「心をつなぐコミュニケーション力」を育ててまいります。保護者の皆様におかれましても、この結果を踏まえ、お子様との対話を通じて、家庭学習の方法や生活リズムについて温かい声掛けと見守りをお願いいたします。

今後とも、御理解と御協力のほどよろしくお願い申し上げます。